

工学部

I	教育の水準	教育 7-2
II	質の向上度	教育 7-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目 I 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成22年度に学術調整室（平成26年度に学術戦略室に改称）を設置するとともに、平成23年度に国際工学教育推進機構を設立するなど教育実施体制を整備している。また、平成23年度にバイリンガルキャンパス推進センターを設置し、創造的ものづくりプロジェクトや英語による論文執筆を支援するERIC（English wRIting Consultant）等の各種国際化教育を実施する体制を整備している。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 工学の導入教育として初年次ゼミナール及び総合科目、工学倫理講演会等の倫理教育、学外の語学学校と連携し、学生に最もマッチした英語教育内容の探求、外部英語教師のスキルを活用する「スペシャル・イングリッシュ・レッスン」等の国際化教育、学外の競技会での優勝を目標に、ロボットの企画、設計、製作、テストを行う「ロボット競技」等の創造的ものづくりプロジェクトを開講するなど、工夫を凝らした教育を行っている。

以上の状況等及び工学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目 II 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）における標準修業年限内の卒業率は、毎年度90%以上となっている。

観点 2-2 「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第 2 期中期目標期間の卒業生のうち進学者の割合は平均約 79%、就職者の割合は平均約 11%となっている。
- 平成 27 年度に卒業生の就職先を対象に実施したアンケート結果では、「課題目標に合致する解決法を考え、最適な解を見つけ出す力」等の 10 項目で肯定的な回答が 90%以上となっている。

以上の状況等及び工学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 学生の多様性を育む創造的ものづくりプロジェクトについて、平成 21 年度の学外参加の競技型プロジェクトは学生フォーミュラーのみであったものの、平成 27 年度はロボット競技プロジェクト、ヒストリックカー参戦、飛行ロボットプロジェクト及び航空システム PBL の 4 プロジェクトに拡大している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 21 年度と平成 27 年度に卒業生の就職先を対象に実施したアンケート結果について、表示方法を統一して比較した結果では、「問題発見能力」や「問題解決能力」等の 15 項目すべての回答値で、平成 27 年度の回答値が平成 21 年度の回答値を上回っている。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。